

平成30年4月6日

(公財) 日本中学校体育連盟
柔道競技部 各ブロック長様
都道府県中学校体育連盟
柔道競技部委員長(部長)様
関係者各位

(公財) 日本中学校体育連盟柔道競技部
競技部長 高橋健司

第49回全国中学校柔道大会の審判規定ならびに個人戦の勝敗決定方法について(周知)

新学期を迎え、校務多忙の毎日が続きますが、平素より中学校柔道の普及発展にご尽力いただき、まことにありがとうございます。

(公財) 日本中学校体育連盟(以下日本中体連)傘下の各大会においては、昨年4月1日より導入された国際柔道連試合審判規定(以下IJF規定)2017~2020改正ルール及び国内における「少年大会特別規定」(以下「少年規定」)を適用して大会を運営されてきたことと存じます。

平成30年4月1日より(公財)全日本柔道連盟(以下全柔連)が主催する大会においては、新たに発出されたIJF規定改正ルール及び少年規定を適用することとなりました。標記大会は中体連と全柔連による共催のため、平成30年4月1日施行の規定を本年度の第49回大会より適用します。各団体に周知のほどお願い申し上げます。規定の詳細は「両袖を持って施す投げ技の禁止」と併せて、全柔連HPをご参照ください。

中学生の試合については、体力面や健康面において最大の配慮をもって大会を運営する旨を中体連本部より指導されています。今回のIJF改正ルールでは「技あり、合わせて一本」が復活し、選手の疲労や大会終了時間の超過、競技補助役員(生徒)の負担など、昨年来危惧された事案が緩和されると予想されます。アスリートとして全国中学校柔道大会(以下全中大会)出場を果たす選手はそれ相当の力量を有しているとは思われますが、発育発達段階である中学生です。上位進出によって生ずる体力的、精神的疲労への配慮及び延長戦ルールによって長くなる試合時間の短縮化を図るために中体連柔道競技部会で検討し、「全中大会申し合わせ事項」として以下のように決定しました。

個人戦の勝敗については、団体戦の個々の試合と同じように、本戦において技による得点差がなく、「指導」差2で試合が終了した場合は、僅差による「優勢勝ち」として勝敗を決する。「指導」差1以内の場合は、時間無制限、GSによる延長戦を行う。

GSについては改正ルールを適用せず、技による得点がない場合、「指導」差が上回った時点でその選手が負けとなる。(本年3月まで適用していた内容で試合を終了する。)

日本中体連、共催団体である全柔連には昨年度に要望し、各種会議を経てすでにご理解、ご承認をいただきました。

上記の経緯により、大会運営の適正化を図ることを目的として標記大会においては、上記の勝敗決定方法としますので併せて周知の程よろしくお願い致します。

以上